

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

第21回「クモの巣を超える」

後藤滋樹
goto@cfi.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

今日のインターネットをひと口で表現する言葉は「ホームページ」だろう。実際にインターネットの回線上で統計を取ると、回線を流れる情報の大半はWWW(ワールドワイドウェブ)に関連していることがわかる。

【ハイパーテキストは昔からあった】

そのWWWの基本技術はハイパーテキストというものである。ホームページにつきもののURLはhttp://www.impress.co.jp/というような形をしているが、その最初の「ht」がハイパーテキストを意味している。ちなみに、後半の「tp」はトランスポートプロトコルの意である。

さて、ハイパーというのは「超」という意味だが、どこが超なのか。普通の文書(テキスト)に比べて何が違うのかというと、実はポインターというものがあることなのだ。ポインターというのは「指し示すもの」という意味で、学校の先生が黒板を指すときに使う棒のことである。

普通の文書は、横書きならば左から右に、そして行は上から下に順番に読むのが原則である。そこへポインターが導入されると、文書の途中でヒョイと別の箇所に飛ぶことができる。ポインターはそのような飛び先を表現することができる。

そんなことができて何がうれしいのかと言えば、文書を順々に読む必要がなくなるからだ。関連のある箇所にポインターが配置されていけば、そのリンクをたどるような読み方が可能になるわけだ。

そんなことは当たり前ではないかと言われそうだが、このようなハイパーテキストという技術がキチンと認識されたのは、それほど昔のことではない。電子化されたテキストをコンピュータで操作す

るのが前提になるので、紙の上に印刷した本では、ちょっと飛びにくい。しかし、ハイパーテキストというものはWWWに比べればはるかに前から存在した技術である。

【ポインターの先は世界だぞ】

WWWは確かに偉い。WWWのポインター、あるいは接続するという意味ではリンクと言っても同じことになるが、その指し示す先は1冊の本の範囲を超えている。

そこがインターネットの優れた点なのだが、あっちのポインターがフランスのサーバーの情報を指しているかと思えば、このポインターは中国のサーバーを指すといった具合。これは、まさにクモの巣(ウェブ)のようなものだ。というわけでWWWは便利に使われている。

ただし冷静に分析をすれば、WWWにおけるハイパーテキスト、あるいはポインターという技術は、コンピュータの世界では昔から知られていたものである。つまり画期的な大発明というよりは、既存の技術をうまく組み合わせてインターネットの利用法を大幅に変革するような影響をもたらしたわけだ。筆者がそこに注目するのは、インターネットの今後を考えるヒントがあるような気がするからである。

【ホームページは、ほんの第一歩】

ひと口で言えば、これまでネットワークとは無縁の世界で確立していた技術をインターネットに持ち込むことによって変革を起こすことができるかもしれないのだ。逆に言えばインターネットは、従来の社会、あるいは世界と比べられるような存在になっている。

その「新技術」が何であるか、筆者にも具体的には指摘できないのであるが、これはむしろ読者諸兄の新鮮な発想に期待すべきだろう。

日本はインターネットでは後追いをしていると言う人々もいる。しかし、WWWの先駆となったgopherに類似したシステムが梅村恭司氏(豊橋技科大)によって作成され、梅村氏の当時の勤務先であるNTT研究所で実用に供されていたという事実や、Javaに比肩すべきCのリモート(遠隔)インタープリターが佐藤豊氏(電総研)によって試作されていたという史実を知ると、日本人のアイデアもまんざらではない。

インターネットはWWWで終わるものではない。これは一連の変革の第一歩にすぎない。その先の世界をひらくのは「あなた」である。もっとアイデアを出し合い、実験をすることが必要だと思う。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp